

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール
Linux オペレーティングシステムイン
ストールガイド



Part No: 821-3628-10
2010 年 11 月、Revision A

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このマニュアルの使用法	5
製品情報 Web サイト	5
関連ドキュメント	5
このドキュメントについて (PDF と HTML)	7
ドキュメントのコメント	8
寄稿者	8
変更履歴	8
OS をインストールするための準備	9
サーバーの準備	10
決定すべき事柄	10
必要な項目の取得	12
ドライバの取得	13
Oracle Linux のインストール	15
配布メディアからの Oracle Linux のインストール	15
PXE イメージから Oracle Linux をインストールする方法	17
必要なドライバをインストールする方法	18
Oracle Linux オペレーティングシステムを更新する方法	19
Red Hat Enterprise Linux のインストール	21
設置の概要	21
RHEL のインストールと管理ドキュメント	22
配布メディアから OS をインストールする方法	22
PXE イメージから RHEL をインストールする方法	23
必要なドライバをインストールする方法	24
RHEL を更新する方法	24
SLES オペレーティングシステムのインストール	27
設置の概要	28
SLES のインストールと設定ドキュメント	28
配布メディアからの SLES OS のインストール	29

PXE サーバーからの SLES のインストール	30
SLES オペレーティングシステムの更新	31

このマニュアルの使用方法

この節では、関連ドキュメント、フィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF と HTML)」
- 8 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「寄稿者」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの情報については、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモジュールをクリックします。

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

関連ドキュメント

Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関連するドキュメントのリストを次に示します。これらのドキュメントおよびその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2?l=ja>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールのドキュメント	Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール製品ドキュメント	検索と索引を含む、アスタリスク (*) の付いたすべてのドキュメントの統合 HTML バージョン。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用の手引き』	図によるセットアップのクイックリファレンス。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』*	サーバーを設置、ラック収納、および設定して初めて電源を入れるまでの方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』*	サーバーに関する重要な最新情報。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』*	Oracle Solaris OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール Linux オペレーティングシステムインストールガイド』*	サポートされる Linux OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』*	サポートされる Microsoft Windows OS バージョンをサーバーにインストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド?』*	サポートされる Oracle VM OS バージョンをサーバーにインストールする方法。
	『Oracle x86 サーバー診断ガイド』*	サーバーの問題を診断する方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』*	サーバーの保守と維持管理を行う方法。
	『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide』	サーバーの安全性および適合性に関する情報。
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Netra X6275 M2 サーバーモジュール』*	サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情報。	
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール Linux オペレーティングシステム 2010年11月、Revision A	保守ラベル Linux オペレーティングシステム	サーバーモジュール上に表示される保守ラベルのコピー。

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Disk Management のドキュメント	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情報。
x64 サーバーのアプリケーションとユーティリティのドキュメント	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』	ILOM の新機能に関する情報。 ILOM 3.0 の概要。 ILOM 3.0 に関する概念情報。 Web インタフェースで ILOM を使用する方法。 コマンドで ILOM を使用する方法。 管理プロトコルに関する情報。

これらのドキュメントの一部については、前述の Web サイトで簡体字中国語、韓国語、日本語、フランス語、スペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF と HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

注- 「ドキュメント情報」と「索引」のトピックには、関連するPDFはありません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントを送信するには、ドキュメントサイト (<http://docs.sun.com>) の任意のページの右下にある「Feedback {+}」リンクをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Kenny Tung、Adam Ru、Isaac Yang、Stone Zhang、Susie Fang、Lyle Yang、Joan Xiong、Redarmy Fan、Barry Xiao、Evan Xuan、Neil Gu、Leigh Chen、Eric Kong、Kenus Lee

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2010年11月、初版

OSをインストールするための準備

この節では、Linux オペレーティングシステム (Operating System、OS) を Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは2つのノードで構成されています。各ノードでは、独自のサービスプロセッサ (Service Processor、SP) を使用し、独自のオペレーティングシステムをサポートできます。2つのノードは互いに完全に独立しているため、異なるサーバーとして管理する必要があります。そのため、各サーバーモジュールでは、ノードごとにオペレーティングシステムを個別にインストールする必要があります。

Sun Blade X6275 M2 は、Linux OS の複数のバージョンをサポートしています。サポートされている最小バージョンを次に示します。

- Oracle Linux 5.5 (64 ビット)
- Red Hat Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット)
- SLES 10 SP3 (64 ビット) および SLES 11 SP1 (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/x6275m2> を参照してください。

次のステップ

使用しているサーバーモジュールに OS をインストールする前に、次の節を確認し、各タスクを完了させます。

1. 10 ページの「サーバーの準備」
2. 10 ページの「決定すべき事柄」
3. 12 ページの「必要な項目の取得」
4. 13 ページの「ドライバの取得」

各節のタスクを完了したあとは、次に示すいずれかの節に進んでインストールを完了させます。

- 15 ページの「Oracle Linux のインストール」
- 21 ページの「Red Hat Enterprise Linux のインストール」
- 27 ページの「SLES オペレーティングシステムのインストール」

サーバーの準備

OS をインストールする前に、次のタスクを完了させてサーバーの準備を行います。

1. サーバーハードウェアを設置します。
2. (省略可) サービスプロセッサを設定します
3. PCIe EM カードに接続されたストレージデバイス上に OS をインストールする場合は、ストレージデバイスから起動できるようにサーバーを設定します。詳細については、PCIe EM のドキュメントを参照してください。

次のステップ

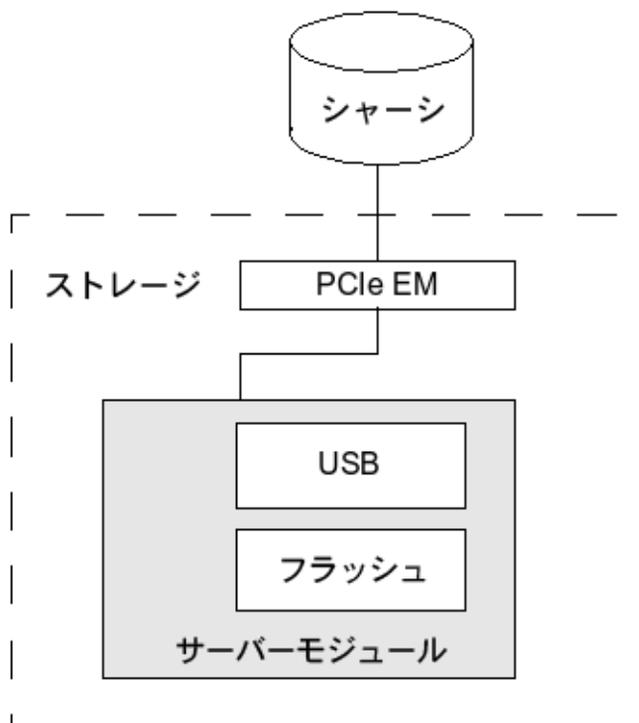
[10 ページの「決定すべき事柄」](#)

決定すべき事柄

オペレーティングシステムをインストールする前に決定すべき事柄を次の表に示します。

OS をインストールする場所

OS は、フラッシュモジュール、USB フラッシュドライブ、または PCIe EM カードに接続されたストレージデバイスにインストールできます。



デバイス	情報
フラッシュモジュール	<p>サーバーモジュールには、ノードごとに1つの Sun フラッシュモジュール (Flash Module、FMod) ソケットが含まれています。</p> <p>FModが存在するときはディスクデバイスとして表示され、そこにオペレーティングシステムをインストールできます。</p> <p>FModの取り付け方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。</p>
USB フラッシュドライブ	<p>サーバーモジュールには、ノードごとに1つの内部USBが含まれています。</p> <p>USB フラッシュドライブが存在するときはディスクデバイスとして表示され、そこにオペレーティングシステムをインストールできます。</p> <p>USB フラッシュドライブの取り付け方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。</p>

デバイス	情報
PCIe EM デバイス	<p>各シャーシブレードのスロットには、2つのPCIe EM スロットが割り当てられています。2つのPCIe EM スロットのいずれかは各ノードに割り当てられています。</p> <p>PCIe EM スロットに接続されたストレージデバイスからブートを行うようにするには、PCIe EM スロットを起動デバイスとして設定する必要があります。手順については、使用しているPCIe EM のドキュメントを参照してください。</p>

インストールする方法

インストール方法	次の節を参照してください。
USB に接続した外部 CD/DVD ドライブを使用してサーバー上の配布メディア (CD/DVD) からインストール	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』の「マルチポートケーブルの使用」
リモートシステムの配布メディア (CD/DVD または ISO ファイル) からインストール	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』の「ILOM Web インタフェースを使用してホストコンソールに接続する方法」
Preboot Execution Environment (PXE) を使用してネットワークブートイメージからインストール	PXE インストールの手順については、各 OS の該当する節を参照してください。

次のステップ

12 ページの「必要な項目の取得」

必要な項目の取得

OS をインストールする前に、次の項目を収集します。

- 使用しているネットワーク環境に必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイ、ネットマスクなど)
- 必要なすべてのドライバ。ドライバのリストについては、13 ページの「ドライバの取得」を参照してください。
- オペレーティングシステムの配布メディア一式または同等の ISO イメージ。ダウンロードの手順については、該当する OS の節を参照してください。
- 必要なハードウェア。説明項目は次のとおりです。
 - リモートインストールを実行する場合は、DVD-ROM ドライブ、キーボード、マウス、およびモニターを、OS のインストール先であるサーバーではなく、リモートシステムに接続します。また、実際の CD/DVD-ROM ではなく、ISO イメージを使用することもできます。

- ローカルインストールを実行する場合は、次の項目が必要になります。
 - サーバーの前面に接続するマルチポートケーブル。詳細については、『[Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル](#)』の「[マルチポートケーブルの使用](#)」を参照してください。
 - USB で接続したキーボードとマウス。
 - モニター。
 - DVD-ROM ドライブ。

次のステップ

13 ページの「[ドライバの取得](#)」

ドライバの取得

インストールする OS 用のサーバー固有のドライバを取得する必要があります。その内容を次に示します。

表1 必要なサーバー固有のドライバ

サーバーモジュール	オペレーティングシステム	ドライバの必要最小バージョン	場所
Sun Blade X6275 M2 (1GbE)	Linux	<ul style="list-style-type: none"> ■ AST2100 ビデオ 64 ビットのドライババージョン: 6.00.10.0090 ■ Intel NIC 64 ビットのドライババージョン: 1.2.10 	Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージ (OS のインストール後に追加の NIC 設定ソフトウェアを入手可能)
	Windows	<ul style="list-style-type: none"> ■ AST2100 ビデオ 64 ビットのドライババージョン: 6.00.10.0090 ■ Intel チップセット 64 ビットのドライババージョン: 9.1.1.1027 ■ Intel NIC 64 ビットのドライババージョン: 15.5 	Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージ (OS のインストール後に追加の NIC 設定ソフトウェアを入手可能)

表1 必要なサーバー固有のドライバ (続き)

サーバーモジュール	オペレーティングシステム	ドライバの必要最小バージョン	場所
Sun Blade X6275 M2 (10GbE)	Linux	<ul style="list-style-type: none"> ■ AST2100 ビデオ 64 ビットのドライババージョン: 6.00.10.0090 ■ Mellanox CX-2 EN NIC 64 ビットのドライババージョン:1.5.1.3 	Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージ (OS のインストール後に追加の NIC 設定ソフトウェアを入手可能)
	Windows	<ul style="list-style-type: none"> ■ AST2100 ビデオ 64 ビットのドライババージョン: 6.00.10.0090 ■ Intel チップセット 64 ビットのドライババージョン: 9.1.1.1027 ■ Mellanox CX-2 EN NIC 64 ビットのドライババージョン:1.3.0 	

Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージのコピーは、<http://www.oracle.com/goto/x6275m2> から取得できます。

最新のドライバは、該当する `install.sh` スクリプトを実行して取得することもできます。該当する `install.sh` スクリプトとドライバの場所を次の表に示します。

OS	install.sh スクリプト	ドライバの場所
Oracle Linux	<code>\Linux\OL\install.sh</code>	<code>\Linux\OL\OL5U5\Drivers\64bit</code>
RHEL	<code>\Linux\RHEL\install.sh</code>	<code>\Linux\RHEL\RHEL5.5\Drivers\64bit</code>
SLES	<code>\Linux\SLES\install.sh</code>	<code>\Linux\SLES\SLES10SP3</code> または <code>\Linux\SLES\SLES11SP1</code>

Oracle Linux のインストール

この節では、Oracle Linux を Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

このサーバーでサポートされている Oracle Linux の最小バージョンは、5.5 (64 ビット) です。サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/x6275m2> を参照してください。

この節では、次のトピックについて説明します。

- 15 ページの「配布メディアからの Oracle Linux のインストール」
- 17 ページの「PXE イメージから Oracle Linux をインストールする方法」
- 18 ページの「必要なドライバをインストールする方法」
- 19 ページの「Oracle Linux オペレーティングシステムを更新する方法」

配布メディアからの Oracle Linux のインストール

サーバーに Oracle Linux をインストールする前に、9 ページの「OS をインストールするための準備」の節を確認し、説明されている準備を行ってください。

次の Oracle マニュアルを取得します。

マニュアル名	説明	入手場所
リリースノート	使用している Oracle Linux ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。	次の Web サイトから入手できます。 http://oss.oracle.com/e15/docs/
Oracle Linux Installation Guide	Oracle Linux のインストール手順を段階的に説明したオンラインの記事。	次の Web サイトからダウンロードできます。 http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleEnterpriseLinux5Installation.php

関連項目

- 16 ページの「Oracle Linux メディアをダウンロードする方法」
- 16 ページの「配布メディアから Oracle Linux をインストールする方法」

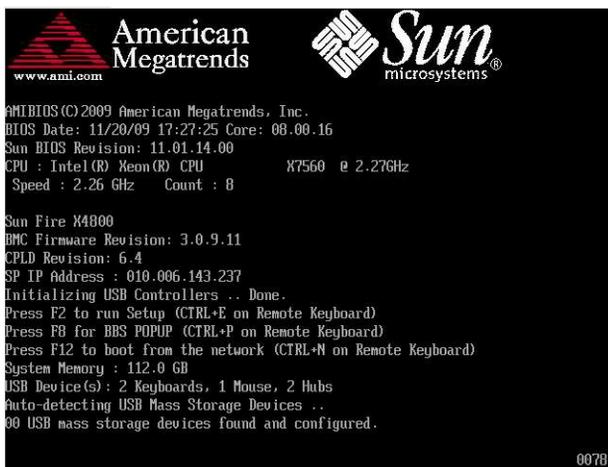
▼ Oracle Linux メディアをダウンロードする方法

- 1 Oracle e-delivery サイト (<http://edelivery.oracle.com/linux>) に移動します。
- 2 アカウントがない場合は、アカウントを作成します。
更新された ISO イメージをダウンロードするアカウントが必要になります。
- 3 Oracle Linux を検索してダウンロードします。

次の手順 16 ページの「配布メディアから Oracle Linux をインストールする方法」に進みます。

▼ 配布メディアから Oracle Linux をインストールする方法

- 1 サーバーコンソールに接続します。
- 2 Linux ディストリビューション DVD を挿入するか、ISO イメージにアクセスします。
- 3 サーバーの電源を入れるか、サーバーをリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。



- 4 メッセージで選択肢が表示されたら、**F8**を押します。
しばらくすると、起動デバイスの選択メニューが表示されます (次の例を参照)。



- 5 一覧から起動デバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージから起動するには、CD/DVD を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 6 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで以下のいずれかを実行します。

- テキストモードの場合、次のコマンドを入力します:**boot: linux text**
- グラフィックモードの場合、ブートプロンプトで **Enter** を押します。

追加情報については、次の Web サイトにある Oracle Linux 5 のインストール記事を参照してください。

<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleEnterpriseLinux5Installation.php>

注 - Linux とは別のオペレーティングシステム (Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。そのパーティションに Oracle Linux をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、Oracle Linux を別のパーティションにインストールする必要があります。

次の手順 18 ページの「必要なドライバをインストールする方法」に進みます。

▼ PXE イメージから Oracle Linux をインストールする方法

この手順では、PXE イメージからブートを行うようにサーバーを準備する方法、および、ブートイメージファイルを PXE/DHCP サーバーからダウンロードする要求を

行う方法について説明します。これにより、使用しているサーバーモジュールにブートイメージがインストールされます。

注 - Oracle Linux を PXE サーバーからインストールするようにサーバーを設定する前に、PXE サーバーをサポートするようにネットワークを設定する必要があります。

- 1 次の **Web サイト** から **Linux** ドライバパッケージをダウンロードします。
<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>
- 2 **PXE** イメージにドライバを追加します。
必要なドライバのリストについては、[13 ページの「ドライバの取得」](#) を参照してください。
- 3 **PXE** クライアントを **PXE** サーバーと同じネットワークに接続し、**PXE** クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントは、Oracle Linux OS のインストール先となるサーバーモジュールノードです。
- 4 **BIOS POST** の実行時に、**F12** キーを押して任意のネットワークインタフェースを選択します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
- 5 **boot:** プロンプトで、**PXE** サーバー上の **Oracle Linux** イメージのラベルを入力します。
インストールイメージが、目的の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにダウンロードされます。
- 6 システムプロンプトに従って、オペレーティングシステムをインストールまたは設定します。

参照 [19 ページの「Oracle Linux オペレーティングシステムを更新する方法」](#)

▼ 必要なドライバをインストールする方法

始める前に 必要なドライバを取得します。詳細については、[13 ページの「ドライバの取得」](#) を参照してください。

- 1 物理 **CD/DVD** を使用している場合は、ドライブに挿入します。
- 2 **CD/DVD** または **ISO** イメージをマウントします。
- 3 **Oracle Linux** ディレクトリに移動します。

- 4 **readme** ファイルに記載されている手順に従います。

▼ Oracle Linux オペレーティングシステムを更新する方法

次の手順に従って、Oracle Linux を最新の OS に更新します。

注-システムが一般アクセスが可能なネットワーク上にある場合は、システムをアップデートするとセキュリティが向上します。

始める前に 使用しているサーバーに、Oracle Linux がインストールされている必要があります。

- Oracle Linux オペレーティングシステムの更新方法を次の中から選択します。
 - Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) のインストールの場合は、ローカル yum リポジトリを作成し、yum と up2date を設定して、そこから更新パッケージをインストールします。
<http://www.oracle.com/technetwork/topics/linux/whatsnew/index.html> を参照してください。
 - Unbreakable Linux Network サポートなしの Oracle Linux インストールの場合は、Oracle Public yum サーバーと yum クライアントを使用して更新をインストールします。
<http://public-yum.oracle.com/> を参照してください。

注-この yum サーバーは、サポートが付かない状態で提供されます。正誤表、セキュリティパッチ、およびその他の更新が必要な場合は、Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) を使用してください。オンラインストアまたは販売担当者から入手できます。

Red Hat Enterprise Linux のインストール

この節では、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) を Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

このサーバーでサポートされている RHEL の最小バージョンは、5.5 (64 ビット) です。サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/x6275m2> を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 21 ページの「設置の概要」
- 22 ページの「RHEL のインストールと管理ドキュメント」
- 22 ページの「配布メディアから OS をインストールする方法」
- 23 ページの「PXE イメージから RHEL をインストールする方法」
- 24 ページの「RHEL を更新する方法」

設置の概要

インストール手順の概要を次に示します。詳細については、実際の手順を参照してください。

1. 9 ページの「OS をインストールするための準備」に記載されている手順を完了します。
2. 次のサイトから、メディアのコピーまたは同等の ISO ファイルを取得します。
<https://access.redhat.com/downloads/>
ISO イメージをダウンロードするには、RHEL アカウントが必要です。
3. Sun Blade X6275 M2 Linux ドライバパッケージのコピーを取得していない場合は、次のサイトから取得します。
<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>
4. OS と Sun Linux ドライバパッケージをインストールします。
 - 配布メディアから RHEL をインストールする方法については、22 ページの「配布メディアから OS をインストールする方法」を参照してください。
 - PXE サーバーから RHEL をインストールする方法については、23 ページの「PXE イメージから RHEL をインストールする方法」を参照してください。

- ソフトウェアを更新します。24 ページの「RHEL を更新する方法」を参照してください。

RHEL のインストールと管理ドキュメント

RHEL ソフトウェアを Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする前に、<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/> にある次のドキュメントを確認してください。

表2 RHEL ドキュメントのソース

マニュアル名	説明
『Release Notes』	ご使用の RHEL ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。
『設置マニュアル』	RHEL のインストール時に役立つ情報が含まれた簡易ガイドの印刷版です。
導入ガイド	システムの導入、設定、および管理についての情報を提供します。
LVM 管理者ガイド	論理ボリュームマネージャ (Logical Volume Manager、LVM) を管理して論理ストレージボリュームを作成するための情報を提供します。
クラスタ管理	クラスタ環境の設定および管理についての情報を提供します。
仮想化ガイド	仮想サーバーの設定および管理についての情報を提供します。

▼ 配布メディアから OS をインストールする方法

RHEL では、テキストモードと使いやすいグラフィックインタフェースの両方を使用して、オペレーティングシステムのインストールと設定を行うことができます。boot プロンプトで、使用するインタフェースを選択できます。このセクションでは、両方のオプションについて説明します。

1 CD/DVD ドライブを接続します。

USB に接続された CD/DVD ドライブを使用している場合は、次の操作を実行します。

- USB 接続 CD/DVD ドライブを、マルチポートケーブルの USB ポートに接続します。
- 最初の Distribution CD/DVD を、サーバーモジュールに接続された CD/DVD ドライブに挿入します。
RKVM を使用している場合は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』の「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」に示されているように、RKVM を使用して CD/DVD ドライブまたは同等の ISO イメージをマウントします。

- 2 システムの電源を入れます。
 - a. POSTの実行時にF8を押してBBSポップアップメニューにアクセスします。起動デバイスのリストが表示されます。
 - b. 起動リストから「CD/DVD drive (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
 - USB 経由で接続している場合は、「USB CD/DVD (USB CD/DVD)」を選択します。
 - RKVM 経由で接続している場合は、「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。選択したメディアからサーバーがブートし、boot: メニューが表示されます。
- 3 boot プロンプトで、次のいずれかを選択します。
 - テキストモードの場合、以下のコマンドを入力します。
boot: **linux text**
 - グラフィカルモードの場合はEnterを押します。
- 4 インストールドキュメントを参照して、残りのインストールプロセスを実行します。
<http://www.redhat.com/docs/> を参照してください。
- 5 ドライバをインストールします。
詳細については、13 ページの「[ドライバの取得](#)」を参照してください。
- 6 オペレーティングシステムを更新します。24 ページの「[RHEL を更新する方法](#)」を参照してください。

▼ PXE イメージから RHEL をインストールする方法

この手順では、PXE イメージからブートを行うようにサーバーを準備する方法、および、ブートイメージファイルを Preboot Execution Environment (PXE)/DHCP サーバーからダウンロードする要求を行う方法について説明します。これにより、使用しているサーバーモジュールに PXE からブートイメージがインストールされます。

注 - RHEL を PXE サーバーからインストールするようにサーバーを設定する前に、PXE サーバーをサポートするようにネットワークを設定する必要があります。

- 1 次の **Oracle Web** サイトから、**Sun Blade X6275 M2 Linux** ドライバパッケージをダウンロードします。
<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>
- 2 **PXE** イメージにドライバを追加します。
必要なドライバについては、[13 ページの「ドライバの取得」](#)を参照してください。
- 3 **PXE** クライアントを **PXE** サーバーと同じネットワークに接続し、**PXE** クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントは、RHEL OS のインストール先となるサーバーモジュールノードです。
- 4 **BIOS POST** の実行時に、**F12** キーを押して任意のネットワークインタフェースを選択します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
- 5 **boot** プロンプトで、**PXE** サーバー上の **RHEL** イメージのラベルを入力します。
インストールイメージが、目的の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールノードにダウンロードされます。
- 6 システムプロンプトに従って、オペレーティングシステムをインストールまたは設定します。
- 7 オペレーティングシステムファイルを更新します。
[24 ページの「RHEL を更新する方法」](#)を参照してください。

▼ 必要なドライバをインストールする方法

始める前に 必要なドライバを取得します。詳細については、[13 ページの「ドライバの取得」](#)を参照してください。

- 1 物理 **CD/DVD** を使用している場合は、ドライブに挿入します。
- 2 **CD/DVD** または **ISO** イメージをマウントします。
- 3 **RHEL** ディレクトリに移動します。
- 4 **readme** ファイルに記載されている手順に従います。

▼ RHEL を更新する方法

ソフトウェアは常に更新されるため、オペレーティングシステムの最新バージョンが配布メディアに含まれていない場合があります。

オペレーティングシステムをインストールしたあとは、この手順に従ってください。

- インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. システムで自動更新を設定します。
詳細については、Red Hat のドキュメントを参照してください。
 - b. 必要な場合は、使用している **RHEL** リリース用の最新の正誤表とバグ修正をダウンロードしてインストールします。
詳細については、Red Hat のドキュメントを参照してください。

SLES オペレーティングシステムのインストール

この節では、SuSE Linux Enterprise Server (SLES) を Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

サポートされている SLES の最小バージョンは、SLES 10 SP3 (64 ビット) および SLES 11 SP1 (64 ビット) です。サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/x6275m2> を参照してください。

使用しているサーバーに SLES 10 SP2 と SLES 11 の OS をインストールする方法は 3 つあります。その内容を次に示します。

- ローカル CD/DVD ドライブで、SLES Distribution CD または DVD を使用する。
- リモート CD/DVD ドライブで、SLES Distribution CD/DVD または同等の ISO ファイルを使用する。ILOM のリモートコンソールアプリケーションを使用してもアクセスできます。
- ローカルネットワーク上の Preboot Execution Environment (PXE) サーバーに格納された PXE イメージ、またはネットワーク上のそれ以外の場所に格納されたイメージを使用する。

サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、[10 ページ](#)の「[決定すべき事柄](#)」を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- [28 ページ](#)の「[設置の概要](#)」
- [28 ページ](#)の「[SLES のインストールと設定ドキュメント](#)」
- [29 ページ](#)の「[配布メディアからの SLES OS のインストール](#)」
- [30 ページ](#)の「[PXE サーバーからの SLES のインストール](#)」
- [31 ページ](#)の「[SLES オペレーティングシステムの更新](#)」

設置の概要

インストール手順と必要条件の概要を次に示します。インストールの詳細については、実際の手順を参照してください。

1. 9 ページの「OS をインストールするための準備」の必要条件を満たしていることを確認します。
2. 次に示す正しいリリースファイルとドキュメントが用意されていることを確認します。

- SLES CD/DVD セットまたは同等の ISO ファイル。
- 『SUSE Linux Enterprise Server 10 インストールおよび管理』または『SUSE Linux Enterprise Server 11 Installation and Administration Guide』。
- **SLES 10 のみ**: 次の Sun Web サイトから Sun Blade X6275 M2 Linux ドライバパッケージを取得します。

<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>

これらのドライバは、Intel e1000e ネットワークインタフェースで必要になります。詳細については、パッケージ内の README ファイルを参照してください。

3. SLES ソフトウェアと Linux ドライバパッケージをインストールします。次の節も参照してください。
 - 29 ページの「配布メディアからの SLES OS のインストール」
 - 30 ページの「PXE サーバーからの SLES のインストール」
4. SLES OS を更新します。31 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」を参照してください。

SLES のインストールと設定ドキュメント

SLES をサーバーにインストールするときに役立つリソースを表 3 に示します。これらのドキュメントは、次の場所にあります。

<http://www.novell.com/documentation/sles10/>

<http://www.novell.com/documentation/sles11/>

表 3 SLES インストールのリソース

マニュアル名	説明
『クイックスタートのインストール』	SLES のクイックインストールに関する情報を提供します。
『Release Notes』	使用している Distribution CD/DVD の SLES バージョンについて、リリース固有の最新情報を提供します。

表 3 SLES インストールのリソース (続き)

マニュアル名	説明
導入ガイド	サーバーのインストールと導入に関する情報を提供します。
管理ガイド	操作中の SLES サーバーに関する情報を提供します。
Linux Audit セルフスタート	コール監査を初めて有効化するときの初期情報を提供します。
セキュリティガイド	SLES システムのセキュリティー管理に関する情報を提供します。
High Availability Extension ガイド	高可用性 Linux クラスタの管理情報を提供します。
管理ガイド	SLES サーバーの管理情報を提供します。
Xen 仮想化管理ガイド	SLES サーバーでの仮想化について、概要情報を提供します。
AppArmor クイックスタートガイド	AppArmor プロファイルの設定に関する情報を提供します。
『Novell Customer Center』	Novell 製品の管理に関するユーザー情報を提供します。
SLES ライブラリ	ホワイトペーパーのライブラリを提供します。

配布メディアからの SLES OS のインストール

SLES では、使いやすいグラフィカルインタフェースを使用して、オペレーティングシステムのインストールと設定を行うことができます。Distribution CD/DVD を使用してローカルに接続された CD/DVD ドライブから SLES をインストールする場合も、RKVM を使用してリモートに接続された CD/DVD ドライブの ISO ファイルから SLES をインストールする場合も、インストール手順は基本的に同じです。

▼ 配布メディアから SLES をインストールする方法

- 1 CD/DVD ドライブを接続します。
 - USB に接続された CD/DVD ドライブを使用している場合は、次の操作を実行します。
 - a. USB 接続 CD/DVD ドライブを、該当するノードのマルチポートケーブルの USB ポートに接続します。
 - b. 最初の SLES Distribution CD/DVD を、サーバーモジュールに接続された CD/DVD ドライブに挿入します。

- RKVM を使用している場合は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』の「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」に示されているように、RKVM を使用して CD/DVD ドライブまたは同等の ISO イメージをマウントします。
- 2 システムの電源を入れます。
 - a. POST の実行時に **F8** を押して **BBS** ポップアップメニューにアクセスします。起動デバイスのリストが表示されます。
 - b. 起動リストから「**CD/DVD drive (CD/DVD ドライブ)**」を選択します。
 - 物理 USB 接続 CD/DVD ドライブ経由で接続している場合は、「**USB CD/DVD (USB CD/DVD)**」を選択します。
 - RKVM 経由で接続している場合は、「**Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)**」を選択します。選択したメディアからサーバーがブートし、ブートメニューが表示されます。
 - 3 『SUSE Linux Enterprise Server 10 インストールおよび管理』に記載されているインストール手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了させます。

注-インストールしたファイルの中に開発ツールが含まれていることを確認します。これらの開発ツールは、あとでドライバをインストールするときに必要になります。

- 4 ドライバをインストールします。

詳細については、13 ページの「**ドライバの取得**」を参照してください。
- 5 31 ページの「**SLES オペレーティングシステムの更新**」に従って、OS を更新します。

PXE サーバーからの SLES のインストール

この手順では、SLES ブートイメージを Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールするための最終ステップについて説明します。

▼ PXE サーバーから SLES をインストールする方法

始める前に SLES を Preboot Execution Environment (PXE) サーバーからインストールするようにサーバーを設定する前に、次の手順を実行する必要があります。

- PXE サーバーをサポートするようにネットワークを設定します。
- その PXE サーバーに Linux イメージをインストールします。

- 1 次の **OracleWeb** サイトから、**Sun Blade X6275 M2 Linux** ドライバパッケージをダウンロードします。
<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>
- 2 **PXE** イメージにドライバを追加します。
必要なドライバのリストについては、13 ページの「**ドライバの取得**」を参照してください。
- 3 **PXE** サーバーと同じネットワークに **PXE** クライアントを接続します。
PXE クライアントは、RHEL OS のインストール先となる Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールです。
- 4 **BIOS POST** の実行時に、**F8** キーを押して任意の **NIC** インタフェースを選択します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
- 5 **boot**: プロンプトで、**PXE** サーバーにイメージをインストールした際にイメージに付けたラベルを入力します。
インストールイメージが、目的の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにダウンロードされます。
- 6 **boot** プロンプトが表示されたら、**PXE** サーバーに **SLES** イメージをインストールした際にイメージに付けたラベルを入力します。
SLES の設定方法については、SLES 配布メディアの『SUSE Linux Enterprise Server 10 インストールおよび管理』または『SUSE Linux Enterprise Server 11 Installation and Administration Guide』を参照してください。
- 7 オンラインソフトウェアアップデートを実行して、オペレーティングシステム ファイルを更新します。

SLES オペレーティングシステムの更新

SLES ソフトウェアに標準装備されたオペレーティングシステムのインストールメディアには、最新のソフトウェアバージョンが含まれていない場合があります。メディアがリリースされて以来、インストール対象の SLES オペレーティングシステムが何度も更新されている場合があります。この手順では、PXE サーバーまたは Distribution CD/DVD からオペレーティングシステムをインストールしたあと、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールでそのオペレーティングシステムを更新する方法について説明します。

▼ プロキシサーバーと連携するように SLES オペレーティングシステムを設定する方法

始める前に ネットワークファイアウォールに保護されており、インターネットアクセスにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、正しいプロキシ情報で YaST を設定する必要があります。

- 1 YaST ユーティリティを開きます。
- 2 左側にある「**Network Services** (ネットワークサービス)」タブを選択してから、右側の「**Proxy** (プロキシ)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシ URL を入力します。

注- オンラインアップデートサービスがネットワーク HTTP プロキシを介して正常に機能するためには、次の追加設定手順を実行する必要があります。

- 3 YaST ユーティリティを終了して、次のコマンドを入力します。

```
rug set-prefs proxy-url proxy URL
```

proxy URL は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (例:
`http://proxy.yourdomain:3128/`)。

▼ SLES オペレーティングシステムをオンラインで更新する方法

- 1 スーパーユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。
`# you`
- 3 **Novell Customer Center** に登録します。左側にある「**Software** (ソフトウェア)」タブを選択してから、「**Novell Customer Center Configuration (Novell Customer Center 設定)**」を選択し、指示に従います。
Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードを使用します。
- 4 登録後、「**オンラインアップデート (Online Update)**」タブを選択して、ソフトウェアのアップデートを実行します。